

新型コロナから県民のいのちと暮らしを守り、 玉城デニー知事と共に明るい未来を切り拓く

基地「全国の50%以下に」負担減へ数値目標



見直しは可能と提言した。

日本政府は二〇一一年に在沖海兵隊の意義を示しているが、この提言には反論していない。日本や周辺の防衛に海兵隊が必要としても、沖縄に駐留しなければならぬのか、という疑問に答えていない。

復帰から半世紀が過ぎようとしても、沖縄側が異議申し立てを続けなければならぬことこそが問題の本質であり、日米両政府は無視することなく、ごまかさずに向き合うべきだ。

また、知事は名護市辺野古の新基地建設について、当初の四倍となる約九三〇〇億円の費用と、完成までに十二年の期間がかかることから「普天間飛行場の一日も早い危険性除去に繋がらない」と強調。「工事を中止し、県との対話に応じるよう求める」と強く訴えた。

新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済回復には「全身全霊で取り組む」という決意。「感染症対策課」を新設し、医療提供と検査の拡充、保健所の体制強化、宿泊料用施設の確保、医療機関の支援にも引き続き取り組むと述べた。

県内で新型コロナウイルス感染症が初確認されてから一年以上経過する。いまだ収束が見通せず、長期にわたる外出自粛生活で沖縄社会にも閉塞感が漂っている。マ

県議会二月定例会が二月十六日開会した。玉城デニー知事は二〇二一年度県政運営の所信を表明し、在日米軍専用施設面積に占める県内面積の割合を「当面は五〇%以下を目指す」と数値目標を設定する考えを示した。国土面積の〇・六%の沖縄に在日米軍専用施設面積の七〇・三%が集中しており、基地負担を大幅に軽減する具体策を日米両政府に求めると力強く訴えた。

これまで日米が合意している現在の負担軽減策の全てが実現しても、全国の六十九%が沖縄にとどまる。玉城デニー知事は「応分の負担には程遠い」との認識だ。そこで、注目すべきは沖縄の米軍基地面積の七割を占める海兵隊だ。そっくりそのまま全てが撤退すれば沖縄の米軍施設面積は四十一%になる。県議会は全会一致で二度、全面撤退を要求してきた。県内の情勢がまとまる可能性はあると考える。

県が設置した万国津梁会議は、県外の自衛隊基地への分散移転や共同使用、ローテーション配備を進めることで、在沖海兵隊の配置



スコミの県民意識調査では、「暮らして困ったこと」に「人との交流機会が減った」を挙げる人が六七・三%で最も多かった。他者とのふれ合いが、いかに私たちの生活に欠かせないものか、心身の健康を支えているか皮肉にも新型コロナウイルスによって再認識させられた。

自粛生活が孤立を生み、孤独感を強める人が増えている。県と地域を挙げた対策が急務だ。

新たな沖縄振興計画の策定について、知事は「未来を先取りし、日本経済の一端を担う」と語り、先進技術を活用した経済振興にも力を入れる考えを示した。玉城知事の任期一期目の仕上げに向け、課題解決の手腕に期待する。

私自身、市民の皆様のご支援により県議活動四期目がスタートしています。新型コロナウイルスから県民・市民のいのちと暮らしを守り、玉城デニー知事と共に明るい未来を切り拓いて参ります。

◆知事の政治姿勢について

○今年度は、SACCO合意から二十五年度の節目に当たる。知事は、かねてよりSACCO設置を提案し、所信表明演説では在沖米軍基地について当面は在日米軍専用施設面積の五〇％以下を目指す方針を示した。施政権返還から五十年を迎えるにあたって、これまでの基地政策を見詰め直し、新たな枠組み・指針の下で基地の整理縮小を進めていく決意について伺う。

答弁 (知事公室長)

国土面積の約〇・六％の本県に米軍専用施設面積の約七〇・三％が集中しており、応分の負担には依然として程遠い状況にあります。このため、日米両政府に対して当面は在日米軍専用施設面積の五〇％以下を目指すとする具体的な数値目標の設定を求め、その数値目標の設定にあたっては、沖縄県の意見を十分反映させることにより、県民が納得できるものにする必要があることから、日米両政府に沖縄県を加えた三者で協議を行う場合SACCOを設けていただきたいと考えております。



○新型コロナウイルスの感染者が県内で初確認されてから一年が経過した。行政の危機管理として迅速な判断、対応がなされていたか、取組体制は十分だったか、施策の実効性を高める工夫はあったか等の点について、県の自己評価を伺います。

答弁 (保健医療部長)

県では、基本的な感染対策として三密の回避や、新しい生活様式の徹底等について県民に対して協力を求めるとともに、感染拡大時には、緊急事態宣言を発出し、外出自粛や営業時間短縮及び県外との往来自粛要請等の施策により感染拡大防止に取り組んでまいりました。各施策は、感染状況に応じて感染症専門家や経済団体との会議等を開催し、これらの意見等も踏まえて対策に反映しており、その時々において考え得る最善策を講じてきたものと考えております。

○県は二月十六日、「Withコロナ、Afterコロナ時代の新たな沖縄観光基本方針案」を発表した。新型コロナウイルス感染症拡大で大打撃を受けた観光産業の復活に向けた基本方針案の概要、今後の取組について伺います。

答弁 (文化観光スポーツ部長)

新たな沖縄観光基本方針案は、ウイズコロナ、アフターコロナ時代の社会変容を踏まえ、安全・安心の島沖縄の実現や、観光危機管理体制、観光産業の回復と発展的方向等について示したものであります。今後は、水際対策の強化とともに、特定の地域に偏らないプロモーションの展開や感染状況のフェーズに応じた段階的な誘客戦略に積極的に取り組むことにより、観光需要の回復を図ってまいります。

○具志川商業高校野球部の二十一世紀枠による甲子園出場が決定しました。また、美里工業高校空手部が全国で唯一「夢・きぼう枠」での全国大会出場を決めました。両校生徒に知事の激励メッセージ、エールを届けてほしい。

この二十一世紀枠それから夢・きぼう枠での決定、出場の決定ということで、非常に価値があるというふうに感じています。競技の成績だけではなくて、学校での活動の在り方、地域活動での在り方あるいは関係者、部活動関係者、監督やコーチ、学校関係者の取組などを総合的に評価した中での出場の決定です。この次に高校生の自殺の話をしなさいといけません、一方でそういう支えがあり、甲子園あるいは全国大会の夢を、切符をつかむという生徒たちがいる一方で自殺に追い込まれる生徒がいるということ、やっぱり周りの環境、特に学校現場の環境というのは重要だというふうに改めて感じています。

どうか知事、今回出場する生徒たち、昨年一年間、一つ上の先輩たちが春の甲子園や夏の甲子園を諦めなければならなかった。そして本人たちも様々な制約、制限の中に、部活動や学校活動を続けてきた中での決定です。そういう意味で知事から激励、子供たちへのエール、必ず活躍してくれるというふうに私期待も確信もしていますので、ぜひ知事からのエールをいただければと思います。

答弁 (玉城知事)

第九十三回選抜高等学校野球大会出場、具志川商業高等学校、第四十回全国高等学校空手道選抜大会出場の美里工業高等学校をはじめ、各種全国大会に出場するチーム、選手の皆様、誠におめでとございます。

コロナ禍において、日々の練習環境も厳しい中、目標を見失うことなく努力を積み重ねてきた選手の皆様、心から拍手とエールを送ります。また、これまで子供たちを温かく支えてくださいました関係者及び保護者の皆様に対し、心より敬意と感謝を申し上げます。今回の出場決定は、県民に大きな夢と希望を与えてくれるものです。選手の皆さん、新型コロナウイルスに負けない、はつらつとしたプレーを期待しております。

沖縄県としては

個性を磨き互いに助け合い、共に成長する喜びが分かち合える、夢や希望に向かって伸びていける教育環境の整備に取り組んでまいります。

○県内の高校で運動部主将を務める男子生徒が自らの命を絶ちました。全国でも同様の事案が相次いでおり指導死と呼ばれ、社会問題となっております。同事案に対する教育長の所見、当局の対応について伺います。

答弁 (教育長)

県立高校二年生の男子生徒が自ら命を絶ってしまったことは、誠に痛ましく、痛恨の極みであります。事案発生後、学校においては、その背景を明らかにするため、職員やクラス、生徒及び部顧問や部員を対象に基本調査を行ってまいりました。その調査で、背景に部活動との関係がうかがわれたことから県教育委員会としましては、さらなる調査が必要であると判断し、弁護士と公認心理師から構成される第三者調査チームによる詳細調査を進めているところであります。今後の詳細調査を踏まえ、このような痛ましい事案が繰り返されないよう、学校のみならず、家庭、地域社会、関係機関と連携した再発防止策に努めてまいります。





ハイサイグスーヨー チュウウガナビラ！
チャーガンジュー、シミソーガヤーサイ

はじめに、昨年の新型コロナウイルス発生以来、罹患されお亡くなりになられた皆様方に哀悼の意を表するとともに、罹患された方々の早期の回復のため、自らの命を顧みず頑張っています医療関係者に対し心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、本来でしたら私の議会活動や調査等をまとめ議会報告会をいたしたいのですが、コロナの状況を勘案し実施できないことをお詫び申し上げます。議会報告会の代わりに議会報告を作成いたしました。これからも皆様方のご負託に応えられるよう、なお一層精進し頑張る所存であります。今後とも皆様方のご鞭撻・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

県議会議員 ウエザト善清

県知事への質問

【知事の政治姿勢について質問①】陸自の（水陸機動団）を辺野古へ常駐させることが制服組の間で極秘に合意されていたことが判明しています。文民統一（シビリアンコントロール）を逸脱する暴挙であり到底看過できない。知事の見解を伺う。

【知事答弁①】沖縄県民は加重な基地負担を強いられ続けており、これ以上の負担は受け入れることはできません。今回の報道にあるような県内米軍施設等における共同使用は、さらなる基地負担の増加につながるものであり、断じて容認できません。

【質問②】辺野古新基地設計変更について審査進捗と県の判断はいつ頃になるか伺う。

【知事答弁②】沖縄県では、地盤の再調査の必要性等について、2月22日付で13項目96件の2次質問を行ったところであります。

今後、沖縄防衛局の回答を詳細に確認する必要があることから、現時点において処分を行う時期を予測することは困難であります。

【質問③】32軍司令部壕は本土決戦まで時間を稼ぐため、降伏せず住民を巻き込むことを決定した場所であり、当時の沖縄戦の実相を伝える貴重な戦跡であり、保存・公開すべきと考えます。知事の見解を伺う。

【知事答弁③】第32軍司令部壕が果たした役割等歴史的事実を検証するとともに、沖縄戦の実相と教訓を次世代に継承するために、今年1月に専門家で構成する検討委員会を設置したところであり、同委員会の中で壕の保存・公開の可能性及び平和発信・継承の在り方等について議論を進めてまいります。

その他の
質問

- ①日米地位協定の抜本的改定について
- ②自民党による憲法改憲発議について
- ③辺野古新基地について
- ④県公共事業の県内優先発注について
- ⑤米軍那覇港湾の移設について
- ⑥SACO合意見直しについて
- ⑦SDGsの次期振興計画施策への反映について
- ⑧有機フッ素化合物PFOSについて
- ⑨海兵隊のリバティ制度・新型コロナウイルス感染対策指針の順守について
- ⑩首里城再建について
- ⑪地球温暖化対策について
- ⑫県営住宅の新設・増設を含めた住宅施策について
- ⑬那覇空港陥没事故について
- ⑭県・国発注の公共工事の県内業者優先発注について
- ⑮家電製品・放置漁船等の対策について
- ⑯闘鶏禁止について
- ⑰健康増進策について
- ⑱地下埋蔵資源・海洋資源の開発について
- ⑲県財政について

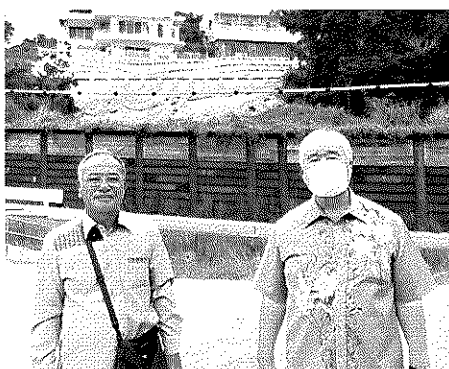
要請行動



新型コロナウイルス対策にかかる政策提案(要請)



新型コロナウイルス基地外居住者の検査徹底と要請



北中城村仲順の土砂崩れの早期整備要請(2020年9月) 令和3年に完成



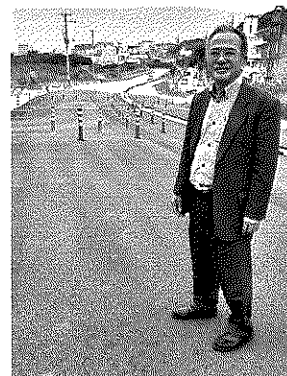
北中城村島袋の県道22号線の側溝の整備要請

6月定例議会質問(2020年6月)

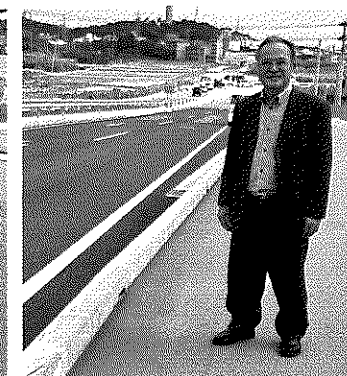
- ① サンライズベルト構想とMICE施設の検討委員会における進捗状況について。
- ② 小波津川整備の工期の遅れの理由について。
- ③ 県道那覇北中城線の工期遅れについて。
- ④ 県道浦添西原線の工期遅れについて。



西原町の小波津川を視察



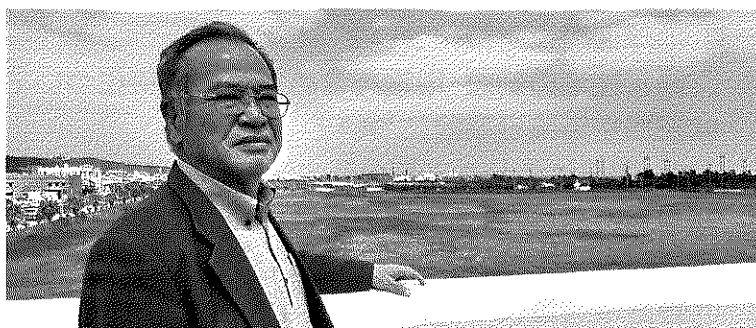
県道那覇北中城線(左)



県道浦添西原線(右)の視察

9月定例議会質問(2020年9月)

- ① MICE施設の運営手法について。
- ② 東海岸サンライズベルト構想について。
- ③ 鉄軌道導入について。



西原マリントウン内のMICE施設予定地を視察

2月定例議会質問(2021年2月)

- ① 本島南部戦跡周辺での土砂採取について。
- ② 米軍専用施設面積50%以下目標について。
- ③ 32軍司令部壕の保存・公開について。
- ④ 陸自の「水陸機動団」辺野古常駐について。



本島南部戦跡周辺の土地採取地を視察